

第2学年 保健体育科 学習指導案

日 時 平成21年12月1日(火) 5校時
場 所 宮古市立河南中学校体育館
生 徒 第2学年C組 男子17名
指導者 教諭 橋本 大助

1 単元名 球技「サッカー」

2 単元について

(1) 教材観

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

サッカーは、ドリブルやパスなどのボール操作を行い、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゴール型の運動である。

サッカーはルールが比較的少なくプレーの自由度が大きい運動であり、コートも広く、絶えず動き続けることが必要とされるため、全身持久力の向上に適した教材である。また、常に周囲を見渡しながらかプレーしなければならないため、状況判断能力の向上にも適している。

サッカーは得点が入りにくい運動であるが、それだけに得点の喜びは大きいものになるので、作戦を立て、ゲームを行いながらゴールを目指して仲間と協力する態度を身につけたり、作戦が成功し得点を重ね勝利に結びつけた達成感を味わったりすることに適した教材でもある。

(2) 生徒観

2年C組の男子は、体を動かすことが好きな生徒が多く、体育の授業には意欲的に取り組んでいる。リーダーを中心にみんなで協力して練習したり、ゲームを楽しむことができる雰囲気である。

今年度実施した体力・運動能力調査の結果はAが2名、Bが8名、Cが5名、Dが2名であった。他のクラスと比較すると、能力の低い生徒の割合が若干高い。

2年C組の男子は、Jリーグや海外のサッカーのニュースを話題にしたり、休み時間にサッカーをして楽しんだりしている生徒が多く、サッカーに対する関心が高い。サッカーに関する技能については、高い生徒とそうではない生徒の差が大きい。技能の高い生徒は個人技能だけではなく、チーム戦術についてもよく理解しているものの、技能の低い生徒は足でボールを扱うことにとまどっている状況が多く見られる。

(3) 指導観

本単元では、ボールを持っているときの動き・持っていない時の動きを工夫しながら攻防を展開し、勝敗を競い合う楽しさを味わうことをねらいとしている。

そのために、指導の手立てとして、以下のことを取り入れていきたい。

- ①基本的なボール操作を身につけ、ゲームの中で活用できるようにする。
 - ・導入段階で「基本ドリル」を位置づけ、毎時間継続して基本的なボール操作の練習をさせる。
 - ②周囲の状況を考え、次の動きを考えながらボールを操作できるようにする。
 - ・ボールを持っている時の動きに着目した「課題練習」として、少人数でルールを工夫したミニゲームを行わせる。
 - ③周囲の状況を考え、空間に走りこんでパスを受ける等、ボールを持っていない時の動きを工夫できるようにする。
 - ・ボールを持っていない時の動きに着目した「課題練習」として、少人数でルールを工夫したミニゲームやゲーム(ハンドゲーム、ラインゲーム)を行う。
- (※作戦盤等を用いて解説しながら、より質の高い動きを学習できるようにする。)

3 単元の目標

〈関心・意欲・態度〉

- ・特性に興味・関心を持ち、進んで「サッカー」の学習に取り組もうとする。
- ・分担した役割を果たし、協力し合いながら、練習やゲームを楽しもうとする。

〈思考・判断〉

- ・課題を見つけ、計画を立て練習を工夫したり、ゲームの中での動き方を工夫したりして課題解決に努めている。

〈技能〉

- ・基礎・基本的技能（ボール操作、空間に走り込む動きなど）を身につけ、ゲームに生かすことができる。

〈知識・理解〉

- ・サッカーの特性、技術の名称や行い方を理解している。
- ・ゲームの進め方、審判や運営の仕方を理解している。

4 指導計画（全10時間）

時間	学習内容・学習活動	関・意・態	思・判	技	知・理
1	①学習目標・課題の確認 ②チーム編成 ③授業の進め方 ④ゲーム	特性や学習の進め方に関心を持ち、進んで取り組もうとする。	自己の能力を知り、自己やチームの課題を具体的に見つけている。	パス、ドリブル、シュートなど基本的なボール操作ができる。	特性、技術の名称や行い方を理解している。
2	①ドリブル、パス練習 ②シュート練習 ③ミニゲーム				
3	①ドリブル、パス練習 ②トラップ練習 ③ミニゲーム				
4	①1対1 ②2対1 ③ミニゲーム	分担した役割を果たし、協力し合いながら、進んで練習やゲームに取り組もうとする。	次の動きや周囲の状況を考えたり、空間への動きを工夫したりしている。	次の動きを考えたボール操作やボールを持っていない時の動きができる。	
⑤ 本時	①4対2（キープ） ②4対2 ③ミニゲーム				
6	①4対4（ハンドゲーム） ②ミニゲーム				
7	①4対4（ラインゲーム） ②ミニゲーム				
8	①チーム練習 ②ゲーム（リーグ戦）	互いに助け合い励まし合いながら、フェアなプレーを守り、ゲームを楽しもうとする。	自己やチームの課題の解決を目指して作戦を立てたり、戦術を工夫したりしている。	基本的なボール操作やボールを持っていない時の動きを生かして、作戦に基づいたゲームができる。	ゲームの運営の仕方や審判の方法を理解している。
9	①チーム練習 ②ゲーム（リーグ戦）				
10	①ゲーム（リーグ戦） ②単元反省				

5 本時の指導（5／10）

(1) 目標

○ボール操作の練習に進んで取り組もうとする。（関心・意欲・態度）

◎次の動きを考えながら、ボール操作ができる。（技能）

(2) 本時の評価の観点と評価規準

観点	A 十分満足できる。	B 概ね満足できる。	C 努力を要する児童への支援
関・意・態	課題の達成に向けて、ボール操作の仕方を追求しようとする。	課題の達成に向けて、ボール操作の練習に進んで取り組もうとする。	練習の進め方を具体的にアドバイスしたり、頑張りを認めたりする。
技能	次の動きを考えながら、確実なボール操作ができる。	次の動きを考えながら、ボール操作ができる。	ボール操作の仕方について具体的にアドバイスしたり、個別に練習させたりする。

(3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 10分	1 集合・挨拶 2 準備運動 3 基本ドリル ・ブラジル体操 ・パス練習① ・パス練習② 4 課題の確認 次動きを考えながら、ボール操作ができるようになる。	・元気に挨拶をさせる。 ・準備運動をしっかり行わせる。 ・ボール操作の基礎技能を習得させる。 （ボールの受け方、コントロールの仕方）
	A パスを受けるポイントの確認 B コントロールするポイントの確認	※「次の動き」についての具体例を1～2例示す。 ・相手や味方の動きをとらえること ・パスの受け方（トラップ等）、出し方 ・ドリブル等でのキープの仕方
展開 35分	5 課題練習① 次動きを考えながらのボールの受け方、コントロールの仕方 ＊「4」対「2」（ゴール無） (1) 課題練習①のポイントの確認 (2) 「4」対「2」（ゴール無）の練習	ボール操作の練習に進んで取り組もうとしている。 （関・意・態） ・ボールキープに絞り込んだ場面を設定することで、ボールの受け方、コントロールの仕方についてより意識させる。 ア パスの受け方（トラップ等） イ マークされていない味方にパス ウ パスやドリブル等でのキープの仕方 ※「次の動き」「ボール操作」の様子を把握する。
	6 課題練習② 次動きを考えながらのボール操作の仕方 ＊「4」対「2」（ゴール有） (1) 課題練習①の振り返りと課題練習②のポイントの確認 (2) 「4」対「2」（ゴール有）の練習	・課題練習①の取り組みを活用させ、シュートに結びつけるためのボールの受け方、コントロールの仕方を意識させる。 ア パスの受け方（トラップ等） イ マークされていない味方にパス ウ パスやドリブル等でのキープの仕方 エ 得点しやすい空間にいる味方にパス オ ゴール方向に守備者がいない位置でのシュート ト

次動きを考えながら、ボール操作ができる。
 (技)

	<p>7 試しのゲーム * 「4」対「4」(ゴール有) (1) 課題練習①、②で取り組んだ事の実践 (2) 「4」対「4」(ゴール有)の練習</p>	<p>・課題練習①、②の取り組みを活用させ、4対4の同数のゲームの中でも次の動きを考えながらボールをコントロールすることを意識させる。</p>
<p>終末 5分</p>	<p>8 まとめ (1) 教師による評価 (A、B、その他の点) (2) 自己評価 (カードへの記入)・発表 9 次の連絡 10 挨拶・後始末</p>	<p>・学習課題の達成状況や高まった動き等について紹介する。</p>